

## GWEC 理事会と China Wind Power 2015 の参加報告

日本風力エネルギー学会(JWEA) 理事、国際・広報委員長  
日本風力発電協会(JWPA) 国際・広報部長

上田 悦紀

### 1. はじめに

日本風力発電協会(JWPA)は日本風力エネルギー学会(JWEA)と共に世界風力会議(GWEC)の発足時から共同加盟しており、年に2回開催される理事会(Board Meeting)の参加資格を持っています。今回は2015年10月に北京のChina Wind Power 2015(CWP2015)に合わせて開かれたGWEC理事会と以下の関連行事に参加したので、要旨を報告します。

### 2. MAKE社のBlade Workshop(10/13)

中国では政府の国内産業育成政策と安価な人件費を活かして、風車用のブレードが量産されています。初期は先進国から技術供与を受け、その後は中国企業が独自に設計、生産しています。最近では中億の風車市場が沿岸部のClass III地域に移行するのに伴い、長さ50m以上の長大翼の需要が増えています。この状況を受けて各社から、ブレードの研究、設計、製造、メンテの各分野に関してプレゼンが行われました。

### 3. GWEC理事会(10/13)

今回は新市場開拓のWorking Groupの新規発足について主に審議した。計画的な市場開拓はGWECの主要な活動の一つで、過去には中国と中南米に支部を開設して、積極的に該当国の政府にロビイングを行い、数GW/年規模の市場創出に成功してきました。中南米(ブラジルとメキシコ)の市場が軌道に乗ったので、次の市場開拓先とWorking Groupの組織編成について討議しました(図1)。

世界の各地域から十数ヶ国が候補に挙がりましたが(図2)、今回の討議ではベトナム、イラン、ガーナの3国が選定されました。ベトナムは人口増と経済成長で電力需要が旺盛な新興国、イラン(大人口と石油収入あり)は核開発疑惑の制裁が解除されて世界市場に復帰、ガーナはアフリカの中では政治経済と治安が安定しています。中でもベトナムの優先順位が高かったです。



図1 GWEC理事会で説明するMorten氏

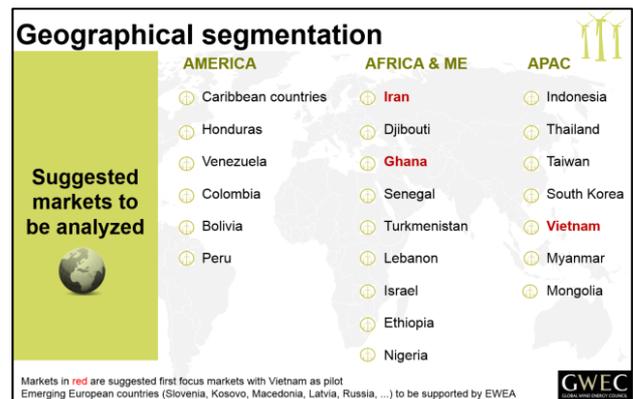


図2 風力発電の新市場の候補

市場開拓のWGリーダーはVestas副社長Morten氏が務め、他ではSiemens、Gamesa、Iberdrola、Acciona、Mainstream、VDMA、ABEEolica、Mita-Teknik、EWEAも参加を表明しました。

その後、キックオフ会が11月パリのEWEA2015で行われました。北京の理事会後の10月末にアルゼンチンの大統領選挙で野党候補が勝利して、新政権は再生可能エネルギー推進への政策変更を表明。アルゼンチンの風力発電は2015年末で累計279MW、新規8MWと小さいですが、4千万人の人口と広大な国土を持ち、特に南部のパタゴニアには広大なClass I級の風況地(ポテンシャルは5GW以上)が広がっています。このためGWECは優先順位を再考して、3月からアルゼンチン政府へのロビイング活動を開始することにしています。

なお日本からは、次の事項を報告しました。

- ・ 2015年7月の政府発表のエネルギーミックスでは風力は2030年に電力供給の1.7%(設備容量で10GW)と低評価になった。
- ・ 日本風力発電協会(JWPA)は、具体的な風力導入促進策をJWPA WindVisionとして作成し、挽回に努めている。
- ・ 日本では風力発電に年に2回の定期点検が法律で義務付けられた。参加者からは世界でも稀な過剰規制という声が多かったです。
- ・ 福島の子体式洋上風力派電の進捗状況

#### 4. FTI Consult 社との夕食会 (10/13)

風力発電の世界統計(各国や風車メーカーの情報)で有名だったBTM社が数年前にNavigant社に買収されました。2015年に旧BTM担当者とNavigant経営陣とで運営方針の対立が発生、旧BTM社の主要幹部のほぼ全員がNavigant社を退職してFTI社に移動して、FTI社から新たに報告書を発行する事態になっています。今後は在来の報告書発行だけでなく、ニュース配信やM&A仲介等の分野にも進出するそうです。

また世界の風力業界では事業再編が活発化。Gamesa&ArevaとGE&Alstomの洋上JV、独Nordex社による西Acciona社の買収、GEの英BladeDynamics買収など。

EWEA2015に合せて顧客説明会を開催するので日本からの参加も勧誘されましたが、これはテロ事件発生で爽りませんでした。代わりに、3月東京のWindExpo2016に合わせて、日本で説明会を開いてもらうように依頼しました。

#### 5. China Wind Power 2015

中国は世界最大の風力発電市場です。今回は以下の活発な動きがありました。

- ・ 中国市場は2015年末で累積145GW。新規30GW/年。今後も20GW/年のペースが続く。
- ・ 最大の課題は系統整備の遅れによる運転制限Curtailment拡大。系統整備と電力制度改革で対処するが、解決には時間が掛かる。
- ・ このため好風況の内蒙の新規開発は停止。
- ・ 当面は電力需要地に近く系統制約の少ない南部沿岸部が中心になる。
- ・ 但し中国南部は風況が悪いので、Class IIIの高性能風車が求められる。

展示会場は相変わらず盛大な人出です(図3)。しかし習政権の綱紀引締策の影響で、3年前のような派手な演出は無く、ビジネスに特化した形で各社がClass III風車を宣伝していました。



図3 China Wind Power 2015の展示場の様子



図4 Recharge Thought Leader's Club

O&M関係の展示も増えています(メンテ10件・安全14件)。欧米メーカーはVestas、Siemens、Gamesa、GE、LM、TPIが出席。日本企業は軸受のNTNとNSKのみでした。

#### 6. Recharge Thought Leader's Club 朝食会

「Thought Leader's Club」は、再生可能エネルギーの国際業界誌Rechargeの連載コラムの名前です。今回は執筆者を含む要人を招待した朝食会に招待されました。GWEC、CWEA(中国風力協会)、TUV、Vestas、Mingyang、Envisionの代表者が、夫々に短い発表を行った後、パネル討論が行われました(図4)。一般には非公開の行事なので、各社要人の生の意見を聞くことができ、なかなか興味深かったです。特に中国の洋上風力開発についてCWEAから「洋上はリスクが高く、採算が合わない。陸上でまだ十分な開発余地がある間は洋上風力は本格化しない。」旨の赤裸々な発言がありました。

#### 7. 最後に

北京の大気汚染は年々酷化していましたが、今回到着した10/12は珍しく快晴でした。でも、日に日に悪化し、帰国後の週末にはPM2.5濃度は「危険レベル」になってしまいました。石炭利用から再生可能エネルギーへの転換は中国にとっても待ったなしの状況になっています。